

# 平成30年度実績に係る部局評価書

部局名:核物理研究センター

【評価区分1】 部局年度計画に対する 達成状況評価	【評価区分2】 「全学的に重視する指標」 に係る実績評価	【総合評価】 評価区分1及び 評価区分2に係る評定
<b>S</b>	<b>A</b>	<b>S</b>

## 【評価区分1:部局年度計画に係る自己評価に対する項目別評価】

項目	評定	コメント(評定に至った主な理由)
【教育】	S	平成30年度計画の達成状況が優れている。
		JSTさくらサイエンスプランによる日亜国際スクールを開催し、東南アジア3か国の学生16名に対して講義やサイクロロン実験施設における実験実習を行ったことが評価できる。
【研究】	S	平成30年度計画の達成状況が優れている。
		J-PARC: K中間子ビームを用いたハドロン物理の国際共同実験研究において、全く新しいタイプの原子核束縛状態を発見したことを国際学術誌で公表し、プレスリリースしたこと、また、産学共創プラットフォーム共同研究推進プログラムOPERAの量子アプリ共創コンソーシアムへの参画機関を14大学・研究機関、23企業に増やし(前年度の約1.5倍)、半導体ソフトエラー対策とアルファ線核医学治療法開発を進展させたことが評価できる。
【社会貢献】	S	平成30年度計画の達成状況が優れている。
		22件の施設見学を実施し、954 名の見学者を受け入れた。全国9の高校(うち5校は昨年度も実施)から377名が訪れたこと、また、ストレンジネス核物理国際スクール(SNPスクール)を主催し、内外から著名な研究者5名を講師に迎え、本学の学生を含む、内外の若手研究者や大学院生42名に対して講義を行ったことが評価できる。
【グローバル化】	S	平成30年度計画の達成状況が優れている。
		14名の外国人留学生を受け入れ、11名の学生を海外に派遣したこと。また、外国人に対する共同利用・共同研究の支援としてRCNP主催の日本語クラスを開催し、RCNP内外から32名の受講者を受け入れたことが評価できる。
【業務運営】	S	平成30年度計画の達成状況が優れている。
		クロスアポイントメント制度により、教授クラス1名、准教授4名(うち女性3名)及び海外より6名の著名な研究者を受け入れたことが評価できる。

## 【評価区分2:「全学的に重視する指標」に係る実績評価】

<p><b>【評価コメント】</b>          常勤教員一人当たりの科学研究費補助金獲得金額について、意欲的に取り組むことで実績を非常に大きく伸ばしていること、かつ大学実績に大きく寄与していることが高く評価できる。          また、公開講座等の実施件数について、積極的に取り組むことで実績を大きく伸ばし、大学実績に大きく貢献していることが評価できる。</p>
---